

「ひょうご子ども・若者応援団」事業成果報告書

ご協力いただいた企業・団体等

| | |
|----------------|--------------------|
| 事業にご協力いただいた企業等 | イオンリテール(株)西日本カンパニー |
| ご提供いただいた資源 | 模造紙 20枚 |

事業の概要

| | |
|------|---|
| 事業名 | 子どもの目線に立った防災学習の取り組み |
| 実施団体 | 社団法人 兵庫県子ども会連合会 |
| 事業内容 | <p><実施日時・場所> 平成22年2月7日、2月25日、3月13日</p> <p><趣旨・目的> 阪神大震災の時、多くの子どもは「被災者」としての扱いを受けていたと聞いた。そこで、当時の子ども達の思いを聞き、子どもが主体となった取り組みができるのかどうかを検証し、子どもの目線に立った防災学習の在り方を提案する。</p> <p><参加者> 指導者、育成者10人</p> <p><主な内容> 子ども達から聞き取った意見や思いを持ち寄って、子どもの目線での防災について話し合う。そして、子どもが防災学習を行うための学習ノートを作成する。</p> |
| 事業成果 | <p>活用 学習ノートを作成する過程での話し合いで、持ち寄った意見や提案をまとめるのに模造紙を利用しました。直接書き込んだり、付箋に書いたキーワードを貼りつけたり・・・とノート作成に大活躍でした。</p> <p>参加者・主催者の声 阪神淡路・大震災から15年が経ちましたが、当時の子どもたちは「子どもは何もしなくていい」「危ないから(邪魔にもなるから)離れていなさい」などとかばわれる対象として扱われることが多かったようです。一方、友達の安否確認を行ったり、避難所で物品の運搬や配布の手伝いをして主体的に動いていた子どももいたようです。</p> <p>いざという時でも、子どもも地域の一員として戦力となれるよう、日常的な防災学習が大切だと感じ、このノートを作成しました。</p> <p>物資をご提供くださった企業さんに感謝するとともに、このような活動について知っていただきたく思います。ご提供、ありがとうございました。</p> |

出来上がった
防災学習ノート

